

研究テーマ	感じ取る力や思考する力を育てるための鑑賞活動の工夫 —小学4年「カードで味わう、形・色」の実践を通して—
-------	---

かすみがうら市立下稲吉東小学校 教諭 長谷川 真紀

## I 研究テーマについて

小学校学習指導要領解説図画工作編（平成20年8月）における第1章総説2図画工作科改訂の基本方針(i)改善の基本方針に、「よさや美しさを鑑賞する喜びを味わうようにするとともに、感じ取る力や思考する力を一層豊かに育てるために、自分の思いを語り合ったり(中略)するなど、鑑賞の指導を重視する。」と示されている。

このことから、様々な方法を取り入れた鑑賞中心の学習の機会を増やす必要があると考える。作品を見たりイメージしたりすることを好む児童は多いが、感じたことを言葉や作品として表現することは得意ではない。また、友達と一緒に活動を苦手と感じている児童もいる。

そこで、感じたことを言葉にする活動、イメージしたことを色や形で表現したり色や形からイメージしたりする活動、イメージを理解し合う活動の学習過程を工夫することで、児童の感じ取る力や思考する力を育てることができないのかと考え、本テーマを設定した。

## II 研究の実際

### 1 題材名 カードで味わう、形・色

#### 2 題材の目標

- 形や色で表すことを楽しむとともに、友達の表現にも関心をもって見ようとしている。  
〈造形への関心・意欲・態度〉
- 言葉をもとに形や色の組み合わせを考え、いろいろ試しながら発想を広げて表すことができる。  
〈発想や構想の能力〉
- 言葉から思いついたイメージを形や色に生かしながら、工夫して表すことができる。  
〈創造的な技能〉
- 友達と互いのイメージの違いやおもしろさに気づき、味わうことができる。  
〈鑑賞の能力〉

#### 3 題材について

##### (1) 児童の実態

本学級の児童（37名）は、平成28年4月から鑑賞の学習を数回行っている。友達の作品の解説文を合わせて見た時には、製作意図を知るとともに、友達と自分の考えの相違にも気付くことができた。また、アートカード（開隆堂）を使った鑑賞では、イメージしたことを言葉に表す活動を中心に学習を進めた。

(名)

	作品を見ること	イメージすること	イメージしたものを作品に表すこと	友達と一緒に考えること
好き	33	28	20	23
普通	4	4	7	8
嫌い	0	5	10	6

意識調査の結果、「作品を見ること」が好きな理由は、色々見られて楽しい、描き方やつくり方がよく分かる、次につくるときの参考になるなどであった。気に入った作品は、時間をかけてじっくり見たいと思っている児童が多いことも分かった。「イメージすること」については、実際には無理かもしれないことでも想像していると楽しい、夢が広がる感じがするから好きと答えている。嫌いな理由は、何も考えつかない、自由に考えるのは苦手だからというものであった。「イメージしたものを作品に表すこと」については、自由に描ける楽しさがある反面、描くものが決まらずイメージがまとまらないために製作が進まないことがあり、思いを表すことの難しさを感じていることが分かった。「友達と一緒に考えること」を通して、自分の考えを聞いてもらったり、友達の考えを聞いたりすることで、違う見方や考え方ができるようになる楽しさを感じている児童が多い。また、図画工作の場合、考えたことに間違いはないという安心感からか、自由に話すことに抵抗感がないとも言える。

## (2) 題材観

本題材は、まず、形や色を表す言葉を考えて「言葉カード」をつくり、その言葉から思い付いた形や色の感じを、色紙などを切ったり、絵の具などで描いたりして、「形・色カード」をつくる。そして、つくった「言葉カード」と「形・色カード」を並べ、互いのイメージの違いや面白さを味わう内容である。子どもたちは、カードづくりやつくったカードで遊ぶ活動を通して、形や色といった造形イメージや言葉を読み取っていく。この活動で学んだことが、次の題材「へんてこ山の物語」（想像の絵）で行う、言葉やお話からイメージした世界を自分なりの表し方で描く学習に生かされることになる。

## (3) 指導観

導入として、アイマスクを使った鑑賞を行い、形や色に着目させ、カードづくりにつなげたい。次に、形や色の名前とともに、個々がその言葉に対してどのようなイメージをもっているのかを引き出す。例えば水色を「冷たい」と感じる児童がいれば、その「冷たい」と感じる根拠は何なのか、児童と進んで会話し、形や色にまつわるエピソードを繰り返して語るようにする。具体的なものをイメージすることで、言葉を絵札に表現する際の形や色を選ぶ視点が生まれるからである。

今回製作するカードは、個人の言葉に対するイメージをもとに表されたものであり、同じような形や色であっても見る者によって違うイメージをもたれることがあると考える。そこで、言葉のイメージがうまく伝わるように、配色や絵札の構成などを十分に検討する時間を設けたい。

友達との関わり合いの場としては、カルタゲームなどを取り入れる。ゲームを通して、個々の表現やイメージの違いに気付かせ自由に話すことで、鑑賞活動の充実を図りたい。

## 4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
形や色の組み合わせに関心をもって表したり、カード遊びを楽しんだりしようとする。	形や色の組み合わせ方を試しながら、表したいイメージを見つげることができる。	材料の特徴やよさを生かし、形や色の組み合わせを工夫して表すことができる。	自分の感じ方を言葉にししたり、友達の見方、感じ方の違いやよさを味わったりすることができる。

## 5 指導と評価の計画（3時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>パズルによるグループ作りをする。</li> <li>アイマスクを使った鑑賞をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形や色などをとらえ、自分のイメージをもって見たり、友達に伝えたりする。 【鑑】【観察】</li> </ul>
第2次 ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>形や色を表す言葉を「言葉カード」として表す。</li> <li>言葉から思い付いた形や色の感じを「形・色カード」として表す。</li> <li>自他の表現のよさを味わう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形や色の組み合わせ方を試しながら、表したいイメージを見つける。【想】【カード】</li> <li>材料の特徴やよさを生かし、形や色の組み合わせを工夫して表す。【創】【カード】</li> <li>形や色の組み合わせに関心をもって表したり、カード遊びを楽しんだりする。 【関】【観察】</li> <li>自分の感じ方を言葉にししたり、友達の見方、感じ方の違いやよさを味わったりする。 【鑑】【観察】</li> </ul>

## 6 指導の実際

### (1) パズルによるグループ作りについて

色や形の組み合わせに関心をもたせるために、パズルを使ったグループ作りを行った。パズルは、色や形がはっきりしている絵画を4つに切り分けたもの（アイマスクを使った鑑賞は、1グループ3～4名で行うため）を使用した。児童は、ブラックボックスに入ったパズルのピースを1つずつ取り、黒板に貼ってある絵と照らし合わせ、同じ絵の友達とグループを作った。さらに、パズルを完成させた後、絵に表現されているものの形や色について話し合い、絵に題名を付けた。どの題名も形や色などをとらえ、よく考えられたものとなった。



これらの活動を通して、児童は、よく見ることの大切さを感じることができた。



(2) アイマスクを使った鑑賞について

1 グループ3～4名で、アイマスクを使った鑑賞を行った。

〈ルール〉

- ・1名、アイマスクをつける。
- ・その他の児童は、A4サイズの絵を見ながら何が描いてあるか説明する。
- ・説明の時間は3分間とし、アイマスクの児童は質問しても良いこととする。

児童には、鑑賞のポイントとして、①形、色、大きさ、位置について伝え合うこと、②アイマスクの児童がイメージしやすい言葉を遣うこと（例：×きれい→○白くてキラキラ光っている）の2点を伝えてから始めた。

初めは、部分的な説明が多かった児童も徐々に画面全体の構成を説明したり、抽象的だった表現が具体的になったり、児童の様子に変化が見られるようになった。また、アイマスクの児童も、分かりにくい言葉について積極的に質問するようになり、活発な伝え合いとなった。活動終了後には、アイマスクを外した児童が絵を見たときの「あ～、こんな絵だったんだ。」という表情や、グループのメンバー全員で絵を見ながら色々話している様子が見られた。



この活動を通して、児童は、見たものを言葉に表すことや自分がイメージしたものを相手に伝えることの難しさに気付くことができた。

～児童の会話から～

- 「いっぱい魚がいるよ。」「いっぱいってどれくらい?」「1, 2, 3, …12匹!」
- 「こわい顔しているよ。」「何が?」「人間みたいな生き物。」「どんな顔なの?」「目が緑色で……。」
- 「明るくて楽しそう。」「明るってというのはね、電気が点いていて黄色いから。」「みんな走ったり踊ったりしているみたいだから楽しそうに見えるよ。」

(3) カードの製作について

形や色を表す言葉を考えて「言葉カード」をつくり、その言葉から思い付いた形や色の感じを、色紙などを切って貼ったり、絵の具やペンなどで描いたりして「形・色カード」をつくった。また、「言葉カード」をつくる時は、色々連想できる言葉（例：優しい、さわやか、ふわふわ、悲しい、暗いなど）を選ぶこととした。言葉から連想できる形や色は様々であるが、自分のイメージに基づいたカードづくりをすることができた。

この活動を通して、児童は、イメージしたものを形や色の組み合わせによって表すことの楽しさや難しさを知ることができた。

(4) 友達との関わり合いの場について

自分と友達のイメージの違いやおもしろさについて話し合う活動を行った。

- ①目標 心を開き、材料や自分自身、友達などと関わり合うことで、互いのイメージの違いやおもしろさに気付き、味わうことができる。

②展開

学習活動及び内容	活動への支援・指導上の留意点（○は評価）
<p>1 学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>イメージのちがいやおもしろさを話し合おう。</p> </div> <p>〈予想される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がつくったカードを使うなんて、楽しみだな。</li> <li>・カードはどんなことに使うんだろう。</li> <li>・グループ活動だ。嬉しいな。</li> <li>・話し合い、苦手だな。どうしよう。</li> </ul> <p>2 友達や自分の表し方のよさを、互いに認め合う。</p> <p>(1)カードを並べて、互いのイメージの違いや面白さを発見したり味わったりする。</p> <p>(2)自分の作品の気に入っているところや工夫したところを発表する。</p> <p>(3)カードを使って、ゲームをする。</p> <p>①カルタゲーム 「言葉カード」からイメージした「形・色カード」を探し、組み合わせる。</p> <p>②しりとりゲーム 似たイメージのカードをつなげていくことで、始めと終わりの違いを楽しむ。</p> <p>3 本時の活動を振り返る。</p> <p>4 片付けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時は、自分がつくったカードを使った活動であることを確認する。</li> <li>・友達の考えを否定してはいけないことを伝え、話すことが苦手な児童も自由に話せる雰囲気をつくる。</li> <li>・4人のグループをつくっておき、スムーズに活動が開始できるようにする。</li> <li>・同じ言葉でも、形や色の感じが違うことに気付かせる。</li> <li>・カードから感じたことを、自分の言葉で相手に伝えるよう話す。</li> <li>・カード製作時に発表のことを伝えておくことで、話す内容を準備できるようにする。</li> <li>・カードのイメージが固定されてしまうので、ゲームはグループを替えて行う。</li> <li>・カルタは、読み手を交代しながらゲームを進めるよう伝える。</li> <li>・カードの違う組み合わせを思い付いたときは、みんなでその考えを共有するよう促す。</li> <li>・「カエル→緑→葉っぱ→ハート→お母さん→卵焼き→黄色」といった例を挙げ、ルールを理解してからゲームを開始させる。</li> <li>・言葉をイメージした根拠も話しながら進められるようにする。</li> <li>・2, 3人の児童に感想を発表させ、本時の発見をみんなで交流する。</li> </ul> <p>○互いのイメージの違いや面白さに気づき、味わうことができたか。</p> <p style="text-align: right;">(活動・発話・発表)</p>



### ③活動の様子

自分がつくったカードを使つての授業ということもあり、児童からは、「何が始まるんだろう。楽しみだな。」といったワクワクした雰囲気が伝わってきた。

カードから感じたことを伝えたり、自分のカードについて説明したりする活動では、相手を意識しながら自分の言葉で話し合いを行う様子が見られた。また、「〇〇みたいな△△」という表現も多く聞かれ、見たものを何かに見立て、分かり易い言葉で言い表せるようになっていたことが分かった。さらに、友達の考えを聞いたうえで、自分の考えを付け足したり、違う考えを言ったりしていたので、各自がしっかりとした考えをもって話し合いに臨んでいることも分かった。



カードを使ってゲームをする活動では、カードを組み合わせたりつないだりする際に、根拠を述べる必要があるため、自然な形で言語活動が活発になっていった。また、よく見ていないと話せなかったり、自分の思いを伝えるために言葉を選ばなければならなかったりするの、漠然とではなく思考しながら見るという姿勢が身に付いたように感じた。



この活動を通して、児童は、イメージしたことを言葉にして、互いに伝え合い理解し合うための方法を知り実践することができた。

## III 研究の成果と課題

### 1 成果

- 感じたことを言葉にする活動（パズル、アイマスク）では、作品をよく見ることの大切さや自分のイメージを相手に伝える難しさやその方法を知ることができた。
- イメージしたことを色や形で表現したり色や形からイメージしたりする活動（カードづくり）では、人によって感じ方に違いはあるが、根拠のある表現をすることで自分のイメージを相手に伝えることができた。
- イメージを理解し合う活動（カード遊び）では、イメージしたことの伝え合いにより、互いの考えを共有することができた。

### 2 課題

- 児童一人一人が、感じたことを伝え合う力をより確実に習得できるように、イメージする過程を充実した学習過程を再構築する。
- イメージを言語化する活動を、学習指導要領に示されている言語活動の充実のための表現における指導の一つとして活用していく。

